

## 【目次】

### 1. アーカイブ No.9

連載「日本労働会館物語」第 6 回 2010.03.29 発行の第 7 号に掲載

### 2. 9/11(月)10:00~12:00 国民民主党・都区議団&青年部 10 名講演・見学

### 3. 9/26(火)~27(水) 出張講演 UA ゼンセン・ベルジョイス労働組合(盛岡)74 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

### 1.アーカイブ No.9

連載「日本労働会館物語」第 6 回 2010.03.29 発行の第 7 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 6 回

＜ユニテリアンとは—ニュートン、ダーウィン、ジョン万次郎、安部磯雄ら—＞

この「物語」は日本労働会館とそのゆかりの人たちの「物語」ですが、同時に前身であるユニテリアン協会（教会）・惟一館とそのゆかりの人々の物語でもあります。このためユニテリアンを日本に招聘しようとした矢野文雄や金子堅太郎について記述しましたが、今回と次回はユニテリアンやユニテリアン思想について簡単にまとめてみます。

日本でユニテリアンと言うと、「キリスト教の一宗派で、少数・異端の人たち」とのイメージがあるようです。確かに少数（全世界で 30 万人位）ですし、神の啓示や奇跡を疑い、理性や合理性を重んじて進化論を受け容れていますので、三位一体説を採るキリスト教正統派の人たちから見れば異端かもしれません。しかし、個人の良心の自由を大切にし、親睦、寛容を謳い、他人の信仰に干渉しませんので、民主社会に生きる人々には馴染みやすい宗教と言えましょう。

ユニテリアン研究者の土屋博政慶大名誉教授は講演の中で、「ユニテリアン (Unitarians) とは、歴史的に言えば、カトリック、ギリシャ正教、プロテスタントを問わず、キリスト教正統派が主張する三位一体 (trinity) 説というものを拒否した人々です。神は唯一なる存在、英語で言いますと unity で、一位一体であると信じ、イエス・キリストは子なる神ではなく、優れてはいるけれど、我々となんら変わらない人間であると主張した人々」と述べています。

米国のユニテリアンは 1961 年、共に自由主義神学の立場をとるユニヴァーサリスト (万人救済説をとる人々) と合同し、ユニテリアン・ユニヴァーサリスト協会を結成しますが、同協会HPは「自由と責任を持って真理と意味を迫及し、これを促進すること」と記し、その会員構成は「不可知論者、無神論者、仏教徒、キリスト教徒、ヒューマニ

スト、魔術主義者、その他の宗教伝統を持つもの」（土屋博政教授訳）としています。つまりユニテリアンはキリスト教徒とは限らず、無神論者、仏教徒、ヒューマニストらを含むのです。このため正統派からは異端とされ、米国の宗教分類でユニテリアンはキリスト教に含まれず「その他の宗教」とされています。

宗教解説書『キリスト教入門』（八木谷涼子著・PHP文庫）は、「ユニテリアン・ユニヴァーサリスト」について、「自由と理性と寛容を重んじ、権威への盲従を嫌う。三位一体を教義としない。自由主義神学の最先端。キーワードは万人救済説、ユニティ、リベラル。社会改革運動や慈善運動に熱心」と解説し、ゆかりの人々として英国のニュートン、コールリッジ、ダーウィン、米国のフランクリン、エマソン（詩人）、ベル、ジェフソンやフィルモア、タフトらの各大統領、ライト（建築家）、日本のジョン万次郎、安部磯雄、市川房枝らを挙げています。

また、土屋教授は戦前日本の代表的なユニテリアンとして三並良、岡田哲蔵、沖野岩三郎、吉田絃二郎、山路愛山、黒岩涙香、加藤一夫、内藤濯、坪田譲治、一条忠衛、小山東助、永井柳太郎、星島二郎、内ヶ崎作三郎、岸本能武太、村井知至、鈴木文治、松岡駒吉らを挙げています。

彼らは少数でしたが戦前期の文学界、政界（社会主義運動含む）、労働界などで活躍し、大きな影響を与えました。戦後のユニテリアンは大きな影響力を持つことはありませんでしたが、現在でも「ユニテリアン友の集い」（紺野義継氏他）が活動を続けています。

※土屋博政：『ユニテリアンと福沢諭吉』、その他一連の論文（慶應義塾大学『日吉紀要』他）

## 2. 9/11(月)10:00～12:00 国民民主党・都区議団&青年部 10名講演・見学

9月11日(月) 国民民主党・都区議団&青年部 10名が、講義「日本労働運動の100年余」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を70分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学と日本労働ペンクラブによる日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。

皆さんとっても熱心に受講し、細かく見学した様子でした。

### 3. 9/26(火)~27(水) 出張講演 UA ゼンセン・ベルジョイス労働組合(盛岡)74 名

UA ゼンセンの加盟組合であるベルジョイス労働組合(盛岡)の出張講演に出向きました。中央執行三役、中央執行委員、職場の支部長、副支部長など総勢 74 名の参加でした。

演題は「未来に向け労働組合が果たすべき役割」。労働組合の存在意義とリーダーに求められるものとして、民主的な労働運動、リーダーシップの発揮、健全な労使関係論、生産性運動三原則について講演しました。中でも、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージなどに通底している精神論と現実主義に関心と興味を引いた様子でした。若い人たちの熱心な眼差しに可能性を感じました。

---

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール [yuairodorekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairodorekishikan@rodokaikan.org)

HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

---

惟一館から 129 年、友愛会から 111 年